

**◎家畜伝染病の防疫対策にしっかりと取り組もう。**  
**◎適期収穫と正しい調製作業で良質な自給飼料を確保しよう。**

## 乳用牛

### ◇ 牛群検定成績を活用した飼育管理の改善

#### 1 乳成分

乳成分は個体の栄養状態を表しており、一般に乳脂肪率が3.0%以下の場合には粗飼料が、乳タンパク質率が2.8%以下の場合には濃厚飼料が不足しているため、それぞれの給与量を増やす。

また、分娩後60日以内で乳脂肪率が5.0%以上と高い場合は、体脂肪が急激に動員されていることを示しているため、脂肪肝及びケトosisを疑い治療する。

#### 2 体細胞数

乳質を改善するためには、個体別に体細胞数を把握する必要がある。泌乳後期や高産次の牛で体細胞数が高い傾向にある場合は、過搾乳や真空圧不足などの搾乳ストレスを疑う。

また、分娩1週間前の乳房が張り始めた頃に、乳汁性状の確認やPL検査を行い、乳房炎が疑われた場合には、直ちに獣医師に治療を依頼する。この場合、初乳を子牛に飲ませることはできないが、薬剤が分娩日まで乳房内に留まるため、泌乳期の治療よりも大きな効果が見込める。なお、分娩前に治療した場合は、生乳の出荷前に抗生物質残留検査を確実に実施する。

分娩直後に体細胞数が高い傾向にある牛は、乾乳期に乳房炎に罹患した可能性が高いことから、乳頭口が開きやすい乾乳初期や分娩直前に、ディッピングを行うことが効果的である。

#### 3 標準乳量

標準乳量とは、異なる条件下にある牛の1日当たりの乳量を比較するために補正した乳量で、暑熱対策など、飼養管理を変更した場合に標準乳量でその効果を確認するものである。また、飼養管理が変更されていないのに、標準乳量が急落した場合は、粗飼料の劣化、乳房炎の蔓延などが考えられることから、その原因を調査し改善に努める。

## 肉用牛

### ◇ 肥育牛の飼育管理

#### 1 飼育環境

全頭が横になれるように飼育密度は1頭当たり5～6㎡を確保し、定期的に敷料を

交換して呼吸器病の要因となるアンモニアの発生を防ぐ。飼槽の食べ残しは除去し、清潔に保つとともに、牛が常に清潔な水を飲めるようにする。

外気温が常時 25℃を超えると、暑熱ストレスにより生産性が低下するため、送風機などにより体温上昇を防ぐ。

## 2 ビタミンおよびミネラルの補給

肉質（サシ）を改善する目的で飼料中のビタミンAコントロールが行われるが、夏季は血液中ビタミンA濃度が低下しやすいので、欠乏症状（盲目や食欲低下）に注意し、早めのビタミンA剤投与を心がける。また、暑熱ストレスやビタミンA欠乏等により肝機能障害が起こりやすいことから、食欲不振に注意し、ビタミン剤や強肝剤の利用により改善を図る。

ミネラルのバランスが崩れ、尿の pH がアルカリ性に傾くと、尿中ミネラルが結晶化して尿石症を発症するので、塩化アンモニウム含有飼料の給与等で予防を図る。

## 3 肺炎や下痢の予防

飼育環境に留意するほか、ワクチンの適切な活用は予防効果が高いので、かかりつけの獣医師又は家畜保健衛生所に相談する。

また、出荷などで牛舎が空になる時期に、舎内の清掃・消毒を行う。特に石灰乳の塗布は効果が高い。

---

# 豚

---

## ◇ 人工授精による効率的な肉豚の生産

- 1 人工授精の活用により、産肉性に優れ、斉一性の高い肉豚を生産するとともに、種雄豚を介する疾病の予防や種雄豚の飼養頭数を減らすことにより、コストを低減する。
- 2 人工授精用精液は、宅配便による流通方式が確立され、種豚場からの入手が可能である。
- 3 母豚群と止め雄の形質を適合させるために、種豚場と相談して使用する精液を選択する。
- 4 精液は 5～15℃で保存すれば 7～14 日は良好な状態を保持できるが、種豚場ごとに保存の最適温度と期間が異なるので確認をする。
- 5 精液到着後は、直ちに指定された温度条件で衛生的に保存し、保存期間が長くなると精子活力が低下するので、できるだけ早めに使用する。

## ◇ 衛生管理

引き続き、国内で豚熱が発生していることから、「飼養衛生管理基準」に基づき、農場を再点検し、特に次のことを徹底する。

- 1 部外者や車両の農場立入りは原則として禁止し、車両等の出入りが必要な場合には消毒を徹底する。
- 2 病原体を豚舎内に持ち込まないようにするため、豚舎出入口に踏込み消毒槽を設置し、消毒を徹底するとともに、豚舎ごとに専用の作業衣・作業靴等を着用する。
- 3 豚舎への野生動物の侵入や接触の防止に努め、特に、その排せつ物等が飼料や飲水に混入しないようにする。

- 4 日常の観察を徹底し、異常豚の早期発見に努めるとともに、発見した場合は、速やかに家畜保健衛生所に連絡し指導を受ける。

---

## 鶏

---

### ◇ 青森シャモロック飼養管理のポイント

- 1 鶏の闘争を防ぐとともに、肉質の向上を図るため、飼育密度はマニュアルに沿って1 m<sup>2</sup>当たり5羽以下とする。
- 2 尻つつきや羽つつきなどの悪癖防止のため、必要に応じてデビーク（断嘴）する。
- 3 胸ダコの発生を防ぐため、敷料は10 cm以上の厚さにする。また、通気を良くし、敷料が湿らないように心がける。

### ◇ 衛生管理

「飼養衛生管理基準」に沿って実施し、特に次のことに心掛ける。

- 1 部外者や車両の農場立入りは原則として禁止し、車両等の出入りが必要な場合には消毒を徹底する。
- 2 病原体を鶏舎内に持ち込まないようにするために、鶏舎出入口に踏込み消毒槽を設置し、消毒を徹底するとともに、鶏舎ごとに専用の作業衣・作業靴等を着用する。
- 3 鶏舎への野生動物の侵入防止に努め、特に、その排せつ物等が飼料や飲水に混入しないようにする。
- 4 日常の観察を徹底し、異常鶏の早期発見に努めるとともに、発見した場合は、速やかに家畜保健衛生所に連絡し指導を受ける。

---

## 草地・飼料作物

---

### ◇ トウモロコシサイレージの調製

#### 1 収穫適期

(1) トウモロコシの収穫は、子実の登熟状況を確認し栄養収量が最大で、かつ、サイレージ発酵に最適な水分70%程度になる黄熟期に行う。ただし、細断型ロールベアラで梱包し、多段積みで貯蔵する場合は、ベールの変形を抑制するため、水分含量が67%程度に低下する黄熟後期に収穫する。

(2) 黄熟期の判定は、以下を目安に行う。

ア 絹糸が出てから早生品種で約40日、中生品種で約50日経った頃。

イ 雌穂を包む苞皮（外側の皮部分）が黄白色になり、子実の表面が硬化し、爪をたてても内容物が出なくなった頃。

ウ ミルクライン（雌穂中央部の子実の黄色部と乳白部分の境目）がほぼ中央に達した頃。

#### 2 収穫と詰込み

(1) コーンハーベスタの刃の切れ味が悪いとサイレージの密度が低下し、不良発酵及び細断型ロールベールの変形の原因となることから、こまめに刃の研磨を行う。

- (2) 刈り取りは当日中に密封できる面積とする。
- (3) 固定サイロでは、踏圧、加重を十分行い、詰め込み後は速やかに密封する。
- (4) 気密サイロや塔型サイロなどでは、詰め込み作業中の有毒ガス（二酸化窒素）の発生や酸欠に注意し、換気を怠らない。
- (5) 細断型ロールベアラ体系では、ラップフィルムを8層巻きとする。

◇ 稲ホールクroppサイレージの調製

1 収穫適期

- (1) 収穫時期は予乾体系では糊熟期、予乾を行わないダイレクトカット体系では黄熟期が適している。
- (2) 熟期判定の目安は以下のとおりである。

熟 期	出穂後日数	稲の状態
糊熟期	15～25 日頃	籾は黄緑色で穀粒は葉緑素が残り黄緑色。胚乳は糊状。
黄熟期	30～40 日頃	籾は黄色または褐色で穀粒は葉緑素が消失し黄色。胚乳はロウ状。穀粒は爪で容易に破碎できる。

2 収穫、調製法

- (1) 専用収穫機で収穫・調製する場合は、予乾が行えないので、水分が十分低下した黄熟期に行う。
- (2) 通常の牧草収穫作業機でロールベアラサイレージに調製する場合は、土砂の混入による発酵品質の低下や脱粒による収穫ロスを防ぐため、予乾・反転作業回数は1回にする。
- (3) ラップフィルムは気密性を保持するため6層巻きとする。

3 飼料向け稲わらの収集

(1) 乾燥の促進

貯蔵中の品質劣化を防ぐため、稲わらは、ほ場内で十分に乾燥する。乾燥促進のため、長わらや長カットわらはテッダにより1～2回反転する。また、ノッタ等で結束した稲わらは、地干しなどにより乾燥を進める。

(2) 梱包、搬出

十分に乾燥したら、レーキにより集草し、ロールベアラで梱包する。梱包後は速やかにほ場から搬出する。

(3) 収納

ほ場から搬出した稲わらは、畜舎近くの風通しの良い納屋等に収納する。屋外に貯蔵する場合はビニールシート等で被覆して雨水の浸入を防ぐ。また、乾燥が不十分なまま梱包した稲わらはラップフィルムで密封する。

---

農業保険

---

**農業保険に加入し、農業経営に万全の備えを！！**

農業保険には、家畜共済、農業経営収入保険などがあるので、自分の経営にあった保険を選択、加入して、自然災害をはじめとしたリスクに備えること。

#### ◇ 家畜共済

「家畜共済」は、家畜の死亡や、廃用の場合にその家畜の資産価値を補償するほか、家畜のケガや病気の場合に診察料を補償する。

平成31年1月、死廃共済と病傷共済について、別々に補償金額が選択できるなど制度が見直された。

#### ◇ 農業経営収入保険

「農業経営収入保険」は、災害による減収に加え、市場価格の低下など農業者の経営努力では回避できない理由により販売収入が減少した場合も補償の対象となる総合的なセーフティネットである。（青色申告の実施が要件）

ただし、国の経営安定対策（マルキン）の対象である肉用牛、肉用子牛、肉豚、鶏卵は農業経営収入保険の対象外となっている。

なお、酪農経営については、生乳販売による収入が主体であるため（生乳の市場価格が下落した時に補填する機能を有している）加工原料乳生産者経営安定対策（ナラシ）と収入保険とは、いずれかを選択することとなるが、加工原料乳生産者補給金制度（ゲタ）と収入保険は同時加入できる。

※詳しくは、お近くの農業共済組合までお問い合わせください。

---

### 家畜の盗難防止

---

#### ◇ 畜産業における防犯（家畜の盗難被害防止）等のポイント

- 1 家畜の飼養頭羽数を小まめに確認し、盗難の被害が発生していないか確認する。
- 2 農場出入口、畜舎、飼料庫、機械倉庫等の窓や出入口は施錠を徹底する。
- 3 農場で飼養する機材等が盗難に利用されないよう、小まめに整理整頓する。
- 4 農場、畜舎周辺にネットや柵等を設置し、侵入しにくい環境を作る。
- 5 外部の通行人から見える農場敷地内や畜舎周辺に「盗難防止警戒中」「立入禁止」「防犯カメラ作動中」等の看板やのぼり旗等を設置する。
- 6 防犯カメラ、センサーライト等を設置する。
- 7 不審者・不審車両を見かけた際や被害が判明した際は、速やかに警察に通報する。
- 8 防疫の観点から、農場出入口や畜舎周辺等における石灰の散布等の消毒を適切に実施する。